

(仮称) 町田市都市づくりのマスタープラン検討の論点 (案)

【住まい】

○年齢構成が偏った住宅地を持続可能な魅力ある「まち」に変えていくために為すべきことは？

- ・住宅地は単に『住む』だけの機能ではなく、近接するみどりや賑わいも一体的に捉え、『働く』も含めた多様な都市活動が展開できる『多様性・多機能性のあるまち』に変えていく必要があるのではないかな？
- ・今後、増加が懸念される空き家・空地について、地域資源として活用していく方策を検討すべきではないかな？

○ライフステージに応じた市内での住み替えを実現するために為すべきことは？

- ・市内の住環境の多様性を活かし、ライフステージ（年齢、身体機能、世帯構成など）にあわせて、市内で『ちょうどいい住まい』を選択できる居住の仕組みを構築することで、住宅地内に世代循環を生み出すことができるのではないかな？

○次世代に向けて大規模団地が生まれ変わるために必要なことは？

- ・モノレール延伸を契機にしながら、団地事業者に「近接地建替」（団地の戸数を減らし中心市街地内で良質な賃貸住宅を供給する等）を促すなど、市域全体を見据えた賃貸住宅ストックの再編も考える必要があるのではないかな？

○安全な住宅ストックを形成していくために必要なことは？

- ・人口減のなか、斜面地開発やミニ開発をなるべく抑えていく仕組みが必要ではないかな？
- ・身近な道路の「歩きやすさ」に配慮したまちづくりを進める必要があるのではないかな？

【交通・モビリティ】

○暮らしに関わる新技術や次世代の価値観による暮らしを謳歌するために都市として何を備えるべきか？

- ・自動運転技術やMaaSなど暮らし方を変える新技術に対応した都市の整備が必要ではないかな？
- ・『シェア』を前提とした新たな暮らし方の検討も必要ではないかな？

○新たな暮らしの実践や、お出かけしたくなるまちをつくるために、既存の交通基盤・交通の資源をどのように生かしていくか？

- ・「移動は増やして自動車交通量は減らす」という視点でまちづくりを進める必要があるのではないかな？

【みどり・公園・緑地・農】

○公園の多機能化・多世代化や管理の効率化など、マネジメント視点で必要なことは？

- ・身近な公園も、多世代が積極的に関わることのできる『まちの中心機能』として積極的に活用できる仕掛けが必要ではないか？
- ・オープンスペースとして一定量は確保しつつも、管理しやすいように公園の再編を図る必要があるのではないか？

○都市農地が公園緑地を補完し、都市生活の充実に寄与するために都市として何をすべきか？

- ・住宅地内の生産緑地を地域のオープンスペースとして捉えて、子どもが土や緑に親しんだり、大人が気軽に農に触れられる空間に出来ると良いのではないか。
- ・モノレール延伸という契機に、丘陵地から住宅地内まで「みどりのネットワーク」として、みどり・オープンスペースの再編を考えることは可能ではないか。

【防災・環境】

○気候の変化、想定される大地震を見据えて、都市として対処すべき新たな視点は？

- ・気候変動への対応だけでなく、根本的に環境負荷の少ない都市を目指す視点も重要。
- ・マスタープランに分野横断的な都市防災の方向性を示していくことが必要。

○都市防災上のリスクをメリットに転換する視点は？

- ・土砂災害リスクのある傾斜地を、景観資源として保全・活用していく視点が必要ではないか？